

第 77 回分析化学討論会（京都） 討論主題

1. DNA から見える世界～生物を通じて環境を測る

オーガナイザー：山中裕樹（龍谷大理工学部）（代表者）

青木 寛（産業技術総合研究所）

趣旨：DNA の新しい検出法が次々と開発され、以前より格段に簡便・高精度で分析できるようになってきた。そこで、「DNA から見える世界」と題して、水中や土壌中に含まれる生物由来の DNA（環境 DNA）を分析対象とする研究者が集い、この新しい研究分野のさらなる展開を探る。

2. 次世代医療を見据えた生体高分子分析の最前線

オーガナイザー：山本佐知雄（近畿大学薬学部）（代表者）

蛭田勇樹（慶應義塾大学薬学部）

趣旨：分子量が大きく構造が複雑な次世代医療の開発など次世代医療を見据えた社会的ニーズにおいて解決しなければならない問題を、糖鎖、タンパク質、核酸等の分析技術についての最新動向と将来展望を踏まえた活発な討論を行う場としたい。

3. 次世代分離システムの構築を目指して

オーガナイザー：岡本行広（大阪大学大学院基礎工学研究科）（代表者）

大城敬人（大阪大学産業科学研究所）

趣旨：分離システムは安全安心かつ豊かに暮らすために必須のテクノロジーであるが、この発展には複数および異分野研究の融合・協力が不可欠である。そこで、本討論では、次世代の分離システム構築の契機とすることを旨とする。

4. X線を利用した有機材料の先端分析

オーガナイザー：村松康司（兵庫県立大学工学研究科）

趣旨：近年の放射光技術の発展と産業界への普及にとともに、放射光軟 X 線を利用した先端的手法が急速に有機材料のキャラクタリゼーションに利用されている。主題討論として、X 線分析分野と有機材料分野の融合による新展開を目指す。

5. 分野を横断して生きる電気分析化学

オーガナイザー：前田耕治（京都工芸繊維大学分子化学系）（代表者）

1) 安川智之（兵庫県立大学大学院）

2) 八谷宏光（東亜 DKK）

3) 丹羽 修（埼玉工業大学）

4) 永谷広久（金沢大学理工学部）

5) 山本雅博（甲南大学理工学部）

趣旨：広範な分野で活用されている電気分析化学について、1) バイオ・バイオミメティック、2) 実分析への応用、3) 新しい電気化学の場・極限環境、4) 他の分析法とのハイブリッド、5) 電気化学の理論・計算・方法にわたって総合的に議論する場を設ける。

6. 品質保証を支える分析技術

オーガナイザー：辻 幸一（大阪市立大学）（代表者）

千葉光一（関西学院大学）

趣旨：メイド・イン・ジャパンと銘打った製品は国際的に高い評価を得ている。その高品質・高信頼性を支えているのは製品開発や製造工程で利用される分析技術である。各種製品の品質保証に関わる分析機器の適用例、標準物質の開発や国際標準化の現状について、材料、バイオ、製薬、食品などの広い分野から講演を募り、課題を明らかとし、解決に向けた方向性を探ることを目的とする。

7. 分析化学における実験データの正しい扱い方（一般公開）

オーガナイザー：山本雅博（甲南大学理工学部）

趣旨：日本分析化学会近畿支部では、実験データを正しく扱うために必要なことを学ぶ講習会を2007年から継続して開催してきた。本シンポジウムでは、教育・研究との関連の紹介や問題提起を行っていただき、参加者で議論したい。

8. お酒の科学（一般公開）

オーガナイザー：加納健司（京都大学農学部）（代表者）

三宅司郎（堀場製作所）

趣旨：討論会が開催される伏見区は日本酒の産地として有名であり、多くの酒造メーカーが日本酒の品質向上を目指して、成分分析や製造管理の技術開発を行っている。京都の食文化や歴史的な背景も含めて議論する場を設ける。

（注）“8. お酒の科学（一般公開）”は公募いたしません。

2016年12月28日現在